

第 28 期（令和 5 年 3 月期）事業報告書

令和 4 年 4 月 1 日より令和 5 年 3 月 31 日まで

I 公益目的事業 1

環境の保全に配慮した繊維製品の再生利用等を通じて、環境への負荷ができる限り低減される生活文化の創造に寄与する事業

1. 環境保全に配慮したユニフォームのリサイクルシステム提供事業 （リサイクルマーク事業）

（1）リサイクルマークの交付

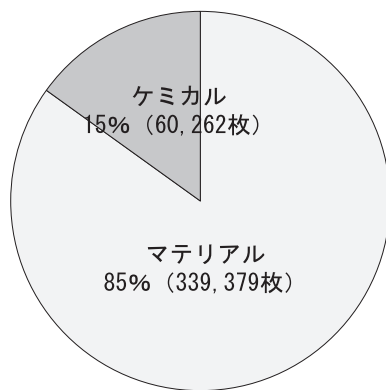
令和 4 年度に交付したリサイクルマークは次のとおりである。

マテリアルリサイクルマーク	339,379 枚	308 件
ケミカルリサイクルマーク	60,262 枚	274 件
合 計	399,641 枚	582 件

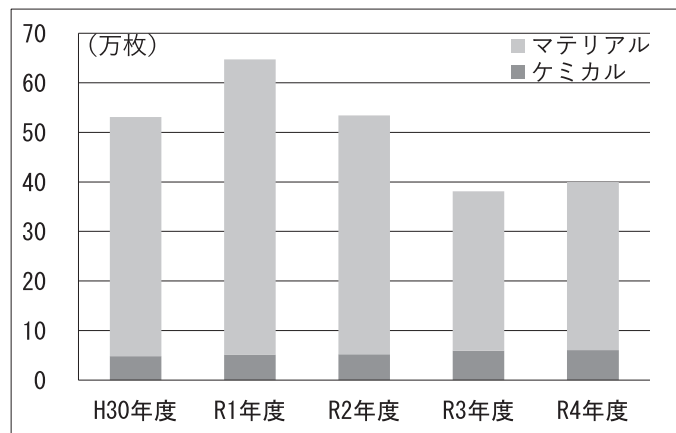
令和 4 年度交付実績



リサイクルマーク



令和 4 年度交付内訳



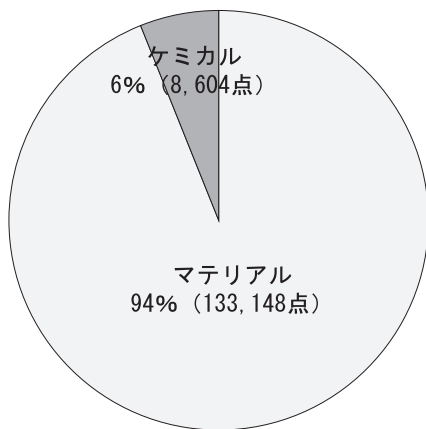
過去 5 年間の交付推移

（2）使用済みユニフォームの回収

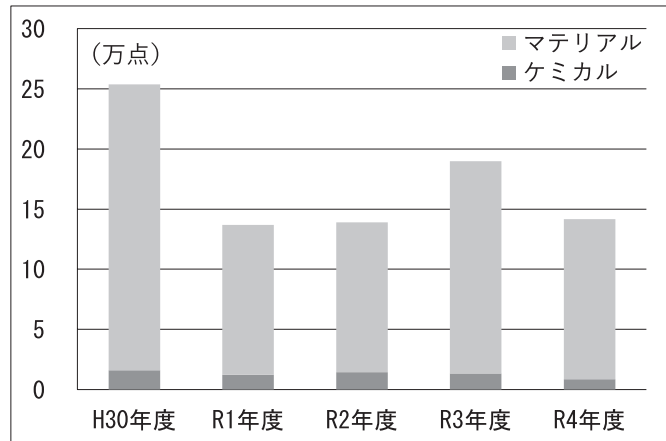
令和 4 年度に回収した使用済みユニフォームは、次のとおりである。

マテリアルリサイクルマーク付使用済みユニフォーム	133,148 点	826 件
ケミカルリサイクルマーク付使用済みユニフォーム	8,604 点	9 件
合 計	141,752 点	835 件

令和 4 年度回収実績



令和4年度回収内訳



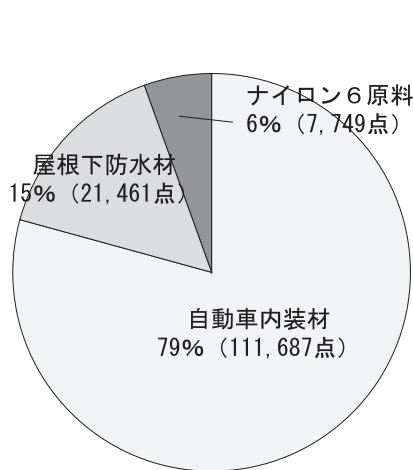
過去5年間の回収推移

(3) 使用済みユニフォームのリサイクル処理

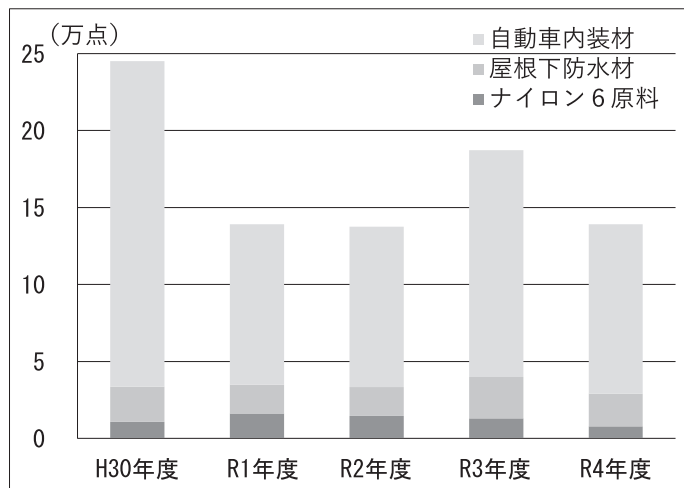
令和4年度にリサイクル処理した使用済みユニフォームは、下記のとおりである。

マテリアルリサイクル処理	自動車内装材	111,687 点	52.674t
	屋根下防水材	21,461 点	10.805t
ケミカルリサイクル処理	ナイロン6原料	7,749 点	4.436t
合 計		140,897 点	67.915t

令和4年度リサイクル処理実績



令和4年度リサイクル処理内訳



過去5年間のリサイクル処理推移

(4) リサイクルマーク事業管理委員会の開催

本委員会は、リサイクルマーク事業における重要事項の協議やトラブル時の対応を行っている。令和4年度は、下記のとおり開催した。

日程：令和4年5月27日 場所：航空会館（東京都港区）

内容：令和3年度広域認定報告書の承認、令和3年度広域認定変更状況の報告、リサイクルマーク事業における回収・処理費の現状

(5) リサイクルマーク事業管理業務の実施

◆ 広域認定の管理

本事業にかかる広域認定について、環境省へ廃棄物（使用済みユニフォーム）の処理実績報告、認定内容の変更届出及び変更申請等を行った。

◆ 職員の講習受講

廃棄物の適正適法な処理を推進し円滑なリサイクルシステム運営を行うため、事業担当職員が公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター主催の産業廃棄物処理講習を受講、修了した。

◆ リサイクル処理に関する証明書の発行

将来におけるリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事前証明書」、すでに実施したリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事後証明書」を会員からの申請により発行している。令和4年度は事後証明書を33件発行した。

◆ リサイクルマークの商標管理

本機構はリサイクルマークの商標登録を行っている。令和4年度は、会員及びユーザー企業からの印刷物等へのリサイクルマーク掲載による商標使用申請を2件承認した。

2. 環境保全に配慮した生活文化に関する調査研究事業

(1) 新規事業実施準備

新たな調査研究事業実施に向け、情報や資料収集等の準備を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対応による営業縮小により実施に至らなかった。

(2) 南九州における900ml茶びんのリユースシステム事業フォローアップ

環境省の循環型社会形成実証事業(*)として、本機構が新規に企画・製造し、市場に出荷された900ml(茶)統一規格びんは、主として焼酎の充てんに使用されている。この900ml(茶)統一規格びんは、対象地域である南九州を中心に、これまで順調に出荷本数・回収本数を伸ばしてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和4年度は出荷回収ともに低い実績となった。

	全 国	九州内のみ	平成16~令和4年度総数
出荷本数	515,209 本	351,548 本	23,745,096 本
回収本数	136,282 本	125,266 本	9,528,620 本
回収率	26.5 %	35.6 %	40.1 %

令和4年度リユースびん出荷・回収実績

※事業名：平成15・16年度循環型社会形成実証事業「南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業」／平成17年度フォローアップ事業

3. 持続可能な社会づくり活動表彰事業

毎年、持続可能な社会推進を目的に、地域社会・国際社会への貢献、資源循環、環境教育及び生物多様性保全活動等、豊かな環境を引き継ぐため、環境、経済、社会が一体となった持続可能な社会づくりに資する活動を行う企業・団体を顕彰している。

(1) 公募・審査

令和4年4月26日～8月31日、自薦他薦を問わず2022年度受賞候補者を一般公募し、審査基準に基づき、事務局が応募者15件ついて一次審査を行った。

令和4年10月3日、持続可能な社会づくり活動表彰審査委員会を開催し、審査委員が一次審査選定候補者について審査し、受賞者を決定した。

審査委員会では、全国各地からの応募に加え、全体的に内容がよく、新規性の高い活動、環境活動として知名度の高い活動が並んだ中、活動の全体性や、持続可能な社会づくりという表彰意義により適う活動が受賞活動として選定された。



公募チラシ

【審査委員会】

- 委員長 小林 正明 公益社団法人環境生活文化機構 会長
- 委員 竹内 恒夫 名古屋大学大学院環境学研究科 名誉教授・特任教授
- 委員 星野 智子 一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事
- 委員 森 高一 NPO 法人日本エコツーリズムセンター 共同代表

(2) 2022年度受賞者

◆ 環境大臣賞

特定非営利活動法人穴塚の自然と歴史の会（茨城県土浦市）

「穴塚の里山の生き物と文化遺産を保全し学び、次世代に伝えよう」

市民団体による地域の里山生態系および歴史文化の保全継承活動。

関東平野有数の生物多様性と歴史的遺産に恵まれた穴塚の里山において、専門家の指導をうけた生物調査、地域関連歴史資料収集、古民家再生、生物多様性保全を目標とした雑木林等の植生管理、外来種駆除、絶滅危惧植物の系統保存、観察路の確保、田畑・果樹園耕作、農家支援、観察会や小中大学授業による環境教育、環境系大学サークルの活動支援、伝統行事の再現、学習会、シンポジウム開催、会



報の発行、広報・出版等の広範な活動を33年間継続している。多様な実践活動を有機的に連携させることで、里山の保全、地域の魅力の発掘を通じ豊かな社会構築に寄与する活動を目指している。

◆ 地域づくり活動賞

つくし野ビオトーププロジェクト

「自然体験不足の大都市近郊の子供と保護者に市民が提供する「体験的環境学習」の17年」（東京都町田市つくし野およびその周辺地区）

市民により子どもや保護者へ「体験的環境学習」を17年間継続中の活動。

大都市圏近郊住宅地ゆえ、自然体験不足のニーズに幅広く応え、「命」をキーワードに身近な環境や生き物と触れ合う自然体験活動を提供。環境教育／学習、都市農業、まちづくり、世代間交流、食育、SDGs等、現代社会の諸課題に、複合・横



断的に対応するオリジナル体験プログラムを多彩に実施。行政・組織・企業と関係なく、市民の問題意識に基づく自主行動による活動を継続。あえて学校教育や商業企画ではできない企画を参加費無料で提供。年25回、延260回以上開催し、参加者総数1.5万人。HP／ブログで活動報告や身近な環境・生き物についての多様な話題を年210回超発信している。

◆ ESD活動賞

次世代のためにがんばる会「故郷を誇れる青少年育成活動」（熊本県八代市）

市民団体による環境保全活動を通じた故郷を誇れる青少年育成活動。

地域を愛する人材育成が実り、将来は会の志を引き継いで世界レベルで活躍してくれることを期待し、会の傘下に若い世代の組織「エコユース八代」を発足させ、地域の宝である球磨川河口干潟の自然を保全するための体験型活動を実



働。廻り繋がる水・生きもの・地球環境を根底テーマに、専門家指導のもと底生生物・野鳥・植物観察会、身近な河川の水質調査、干潟の歴史歩きなど、様々な分野の体験型学習や講演会、ワークショップを実施している。

◆ 資源循環活動賞

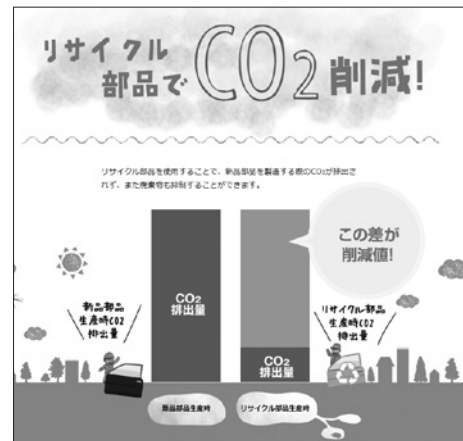
NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合

「自動車リユース部品でカーボンニュートラルに貢献～CO₂削減効果の定量化と研究成

果を活用した普及・啓発～」（全国）

自動車リサイクル業界で国内唯一、経済産業大臣の認可を受けている事業協同組合による自動車リユース部品の普及・啓発活動。

車の修理の際に新品部品ではなくリユース部品を使用した場合のCO₂削減効果を明治大学、富山県立大学と共同研究。LCAを適用し、新品部品とリユース部品の生産過程において発生するCO₂を比較算出。その研究成果を国内外の学会等で発表し、専用サイトでも公開。さらに、見積書、請求書にCO₂削減量が明記されるシステムも開発リリースし、



リユース部品を利用したユーザーへの見える化を実現。また、研究成果を活用し、SDGsの目標設定や、工場見学会の誘致、ベルマーク運動、環境展への出展等を実施している。

◆ 生物多様性保全活動賞

株式会社チノー「チノー ビオトープフォレストにおける環境学習」（群馬県藤岡市）

計測制御機器メーカーによる自社敷地内のビオトープを活用した自然環境学習活動。



2011年に事業所敷地内に「チノー ビオトープフォレスト」として、近隣丘陵で伐採予定の在来の樹木や下草、土壌を移植し、昔ながらの自然豊かな里山風景を復元したビオトープを整備。希少種の絶滅回避に向けた移植・保護・育成活動を実施しており、群馬

大学と連携した植物相調査等をビオトープ造成段階から継続している。地元小学校との環境学習では、地元大学と共同開発した環境学習プログラム（ネイチャーゲーム）や希少種ヤリタナゴの放流、昆虫観察、水質調査などを実施している。毎週火曜日に一般開放を行うほか、季節に応じて桜祭り等のイベントも開催している。

（3）表彰式

令和4年11月28日、KKRホテル東京（東京都千代田区）にて表彰式を開催した。開催にあたって新型コロナウイルス感染対策を徹底し、懇親会をとりやめ規模を縮小した。

はじめに小林会長から主催者挨拶があり、来賓の環境省総合環境政策統括官 上田 康治氏よりご挨拶をいただいた。

続いて受賞者に表彰状が授与され、記念撮影の後、受賞者の特定非営利活動法人宍塚の自然と歴史の会 理事長 森本 信生氏、つくし野ビオトーププロジェクト 代表 小池 常雄氏、次世代のためにがんばる会 代表 松浦 ゆかり氏、NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合 事務局長 谷 洋紀氏、株式会社チノー 環境開発係 係長 村田 匡史氏から

謝辞をいただき、受賞活動のご紹介をいただいた。



環境大臣賞 宍塚の自然と歴史の会 森本理事長への表彰状授与



表彰式の様子



- 前列左から 環境省 上田統括官、NGP 谷氏、つくし野ビオトーププロジェクト 小池氏、宍塚の自然と歴史の会 森本氏、次世代のためにがんばろ会 松浦氏、チノー 村田氏、小林会長
- 後列左から 横山監事、外川理事、梅田代表理事、NGP 青木氏、NGP 早川氏、宍塚の自然と歴史の会 富嶋氏、チノー 笈氏、チノー 小林氏、次世代のためにがんばろ会 松浦氏、森委員、虫明理事長、木村監事、長谷川監事

—(公社)環境生活文化機構—

社会貢献へ行動の変革を

2022年持続可能な社会づくり活動表彰式

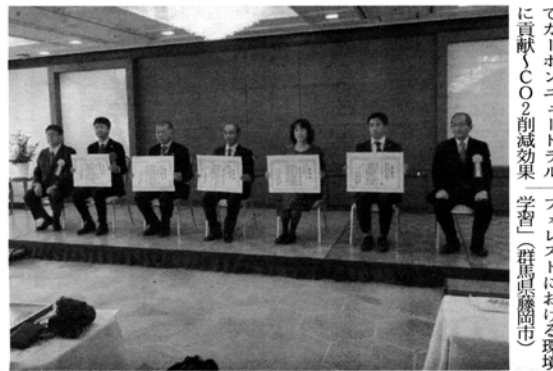


小林会長

公益社団法人環境生活文化機構(小林正明会長)では11月28日、東京都千代田区大手町のKKRホテル東京において「2022年持続可能な社会づくり活動表彰式」を開催した。

今日、温暖化や気候変動と地球環境問題は、われわれ人類の直面する喫緊の課題となっており、全国各地において将来世代へ豊かな環境を引き継ぐため、環境・経済・社会が一体となった様々な取り組みが行われている。同表彰は、持続可能な社会づくりに資する地域社会・国際社会への貢献、資源循環・環境教育および生物多様性保全活動等の企業・団体が実施する活動の中で特に優れた活動を顕彰し、全国に広く発信することで、民間の環境活動を活性化し、個人・企業・団体、地域といったコミュニティの価値と行動の変革をもたらす、持続可能な社会づくりの推進を図ることを目指している。

表彰式では、主催者を代表して環境生活文化機構の小林正明会長が挨拶。次いで来賓の上田康治環境省総合環境政策統括官が祝辞を述べた。このあと各賞の受賞者への表彰状の贈呈が続いた。



資源新報 (2022年12月20日5面)

※環境大臣賞
特定非営利活動法人 塚の自然と歴史の会
「六塚の里山の生き物と文化遺産を保全し学び、次世代に伝えよう」(茨城県土浦市)

※地域づくり活動賞
つくし野ピオトーププロジェクト
「自然体験不足の大都市近郊の子供と保護者に市民が提供する『体験的環境学習』の17年」(東京都町田市)

※ESD活動賞
次世代のためにがんばる会「故郷を誇れる青少年育成活動」(熊本県八代市)

※資源循環活動賞
NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
「自動車リユース部品でカーボンニュートラルに貢献」CO2削減効果

※生物多様性保全活動賞
株式会社チノ
「チノ」ピオトープフォレストにおける環境学習(群馬県藤岡市)

の定量化と研究成果を活用した普及・啓発」(全国)

4. 講演会・研修会・シンポジウム等開催事業

◆ 第25回環境文化講演会

毎年6月に環境月間実施行事として、環境保全に関する生活文化および社会経済システムに関する知識の普及啓発を目的に、地球環境や循環型社会に関する幅広いテーマについて、高度の学識と豊富な経験を持つ有識者を招き、環境文化講演会を開催している。令和4年度は、下記のとおり開催した。

日程：令和4年6月28日(火)

場所：航空会館(東京都港区)

講師：東京大学大学院工学系研究科

人工物工学研究センター 教授 梅田 靖氏

演題：循環型社会からサーキュラー・エコノミーへ



開催案内チラシ



講演会の様子

5. 環境保全に配慮した生活文化に関する広報・普及啓発事業

(1) 季刊誌「エルコレーダー」の発行

本機構の事業や環境保全に関する情報発信・情報交流によって循環型社会に対する多くの人々の関心を高めることを目的に、季刊誌「エルコレーダー」を2回発行した。

◆ 第88号（令和4年7月29日発行）

【巻頭】第25回環境文化講演会

「サーキュラー・エコノミーは、市場競争の座標軸を変える
 一本質は資源の消費と豊かさのデカップリング」
 東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター
 教授 梅田 靖氏

【特別連載】持続可能な農業を目指して1

「バイオマスと物質循環—森林、里山、樹園地、畑、水田、
 そして川・海のつながり—」

立命館大学 生命科学部 生物工学科 教授 久保 幹氏

○環境を見つめる人々70「コウノトリへの恩返し」

独立行政法人国立女性教育会館 理事長 萩原 なつ子氏

○エコ&ユニフォーム最前線 38

「展示会再開、進化するサステ提案」 ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

○事務局報告「2021年度持続可能な社会づくり活動表彰」

○事務局案内「2022年度持続可能な社会づくり活動表彰 募集案内」



◆ 第 89 号 (令和 4 年 12 月 1 日発行)

【巻頭】インタビュー

「現場に立ってこそ感じられるものを、大切に。

—SDGs の視点から、当機構に新しい風を送る—

公益社団法人環境生活文化機構 会長

中間貯蔵・環境安全事業株式会社 代表取締役社長

元環境省事務次官 小林 正明氏

【特別連載】持続可能な農業を目指して 2

「日本の農業の現状と未来」

立命館大学 生命科学部 生物工学科 教授 久保 幹氏

○環境を見つめる人々71「国蝶オオムラサキが棲む町」

独立行政法人国立女性教育会館 理事長 萩原 なつ子氏

○エコ&ユニフォーム最前線 39「新規参入で広がる「エコなユニフォーム」の輪」

ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

○事務局報告「令和 3 年度リサイクルマーク事業ユニフォームリサイクルシステム実施状況」

○事務局報告「2022 年度持続可能な社会づくり活動表彰」



(2) ホームページ

本機構のホームページでは、情報公開・情報発信を目的に、機構情報や事業の紹介等を行っている。リサイクルマーク事業のページは、リサイクルシステムを利用する会員の利便性を考慮し、必要書類等のダウンロード機能を付加しているほか、調査研究事業の活動実施状況の公開、季刊誌「エルコレダー」の掲載、持続可能な社会づくり活動表彰の募集・結果告知、環境文化講演会の参加申し込み受付等を行っている。

(3) 広告の掲載

ダイセン株式会社の「ユニフォームプラス 6 月号 (環境特集号)」(令和 4 年 6 月発行)に、本機構のリサイクルマーク事業ユニフォームリサイクルシステムの紹介広告を掲載した。



ユニフォームプラス 6 月号掲載広告

II 組織運営

1. 理事会・社員総会の開催

本機構の円滑な運営を図るため、令和4年度は下記のとおり理事会及び社員総会を開催した。

◆ 第1回理事会

日程：令和4年5月27日（金） 会場：航空会館 901 会議室

内容：第27期（令和4年3月期）事業報告及び決算報告の承認

役員候補者の選定

新規入会会員の承認

令和4年度定時社員総会招集の決定

◆ 第2回理事会

日程：令和4年6月28日（火） 会場：航空会館 901 会議室

内容：内閣府への事業報告等定期提出書類の承認

新規入会会員の承認

代表理事の職務執行状況の報告

機構運営状況の報告等

◆ 定時社員総会

日程：令和4年6月28日（火） 会場：航空会館 703 会議室

内容：第27期（令和4年3月期）事業報告及び決算報告の承認に関する件

役員の選任に関する件

◆ 第3回理事会

日程：令和4年6月28日（火） 会場：航空会館 901 会議室

内容：代表理事の選定

役付け理事の選定

◆ 第4回理事会

日程：令和5年3月8日（水） 会場：航空会館 506 会議室

内容：令和5年度（第29期）事業計画・収支予算・資金調達及び設備投資の見込みに関する書類の承認

2023年度持続可能な社会づくり活動表彰実施要領の決定

第26回環境文化講演会開催計画の決定

代表理事の職務執行状況の報告

機構運営状況報告

2. 役員・会員

(1) 役員

令和4年度は、6月28日開催の定時社員総会において、平成8年2月の本機構設立当初から長年にわたり会長を務められた広中和歌子氏が退任し、後任に小林正明氏が会長に就任した。

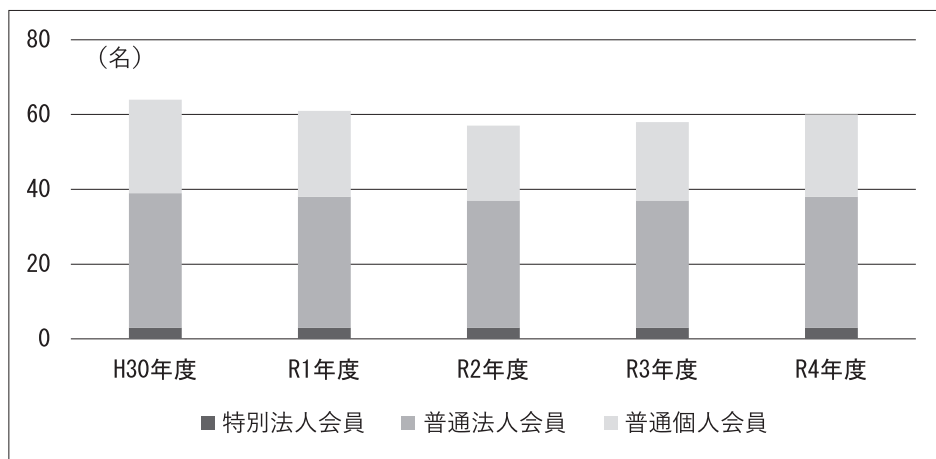
令和5年3月末の本機構役員は、下記のとおりである。

会 長	小林 正明	中間貯蔵・環境安全事業株式会社	代表取締役社長
理 事 長	虫明 清一	株式会社安研	代表取締役社長
代表理事	梅田 輝紀	東レ株式会社	機能製品事業部長
代表理事	堀松 渉	株式会社チクマ	代表取締役社長
理 事	寺田 英司	株式会社きんき	代表取締役
理 事	外川 雄一	株式会社ボンマックス	代表取締役社長
監 事	木村 昌三	東洋リントフリー株式会社	総務課 課長
監 事	長谷川 秀樹	株式会社ジェイ・パイ・ユー	取締役相談役
監 事	横山 良和	やまなみ税理士法人	代表社員／公認会計士・税理士

(2) 会員

令和5年3月期末の本機構会員数は60名であった。内訳は、特別法人会員3名、普通法人会員35名、普通個人会員22名である。

過去5年間の会員数の推移は、次のとおりである。



過去5年間の会員数推移